

# ねりまユニオン

編集発行：練馬ユニオン編集委員会  
 連絡先：練馬区 練馬1-16-16-101  
 サポートねりま内  
 TEL 03-3994-2088  
 E-mail：[support@nerimaunion.org](mailto:support@nerimaunion.org)  
 HP：[www.nerimaunion.or/](http://www.nerimaunion.or/)

## 2021年練馬全労協春闘講座

# コロナ禍での労働運動の役割

2021年2月25日練馬区立勤労福祉会館集会室において竹信三恵子さん（ジャーナリスト・和光大名誉教授）をお招きし「明日を拓く労働運動をつくる！」のテーマで春闘講座が開催されました。

コロナ禍の中、感染予防をして広い集会室で開催され、区内の労働組合の方々が多数参加されました。

講座は真下事務局長の司会で始まり、楠井区労協議長の主催者挨拶では、労働運動を担うものとして思うのは、感染症は社会のリトマス試験紙と言われ、格差社会で弱い部分がやられていくことが明らかであり、不安定雇用の女性が職場を離れざるを得ない状況も多くあり、コロナ禍の中で不安定雇用の社会情勢をまなび明日への活動につながる講座になればと挨拶されました。

竹信講師の講演はパワーポイントを使用したスライドで視覚に訴え「同一労働同一賃金」をどう考えるかを中心に短い時間内でしたが、細かく丁寧に説明されました。

日本の社会は労働問題以前に日本の産業がボロボロになっていると具体的にスライドで以下3点の問題点をはじめに示しながら講演を進められました。

- ① コロナ禍における労働運動の役割
- ② 同一労働同一賃金をどう考えるべきか
- ③ 未来にむけて今後労働者はどうすべきか

コロナ禍の中で非正規労働者の特に女性労働者が解雇、雇い止め、シフト勤務削減などで収入が途絶え生活苦に落ちている現状があり、労働運動が取り組む課題を明らかにされました。

### コロナ禍での労働運動の役割として

賃金低下：産業構造が大転換、生活できる賃金を保障する産業を生み出せずに来た産業政策。再生可能エネルギーなど国内に雇用を生み、利益率が高い産業の育成

・そこへコロナ禍＝脆弱労働者から失業、非正規のセーフティネットの不在、安全衛生での格差と差別



- ・格差の拡大で困窮者の状況が見えなくなっている
- ・パイの減少で一部の上層部で利益の分取りを行う政権
- ・産業が問題だから労組は不要とする説の誤り＝働き手のどこが傷んでいるのか、何があれば助かるのかを労働相談や労使交渉からつかみ発信する労組など中間組織の役割は不可欠
- ・企業別労組に閉じこもらず、産別・地域での労働運動を＝「A社との競争に負けたら仕事がなく」と脅される労働者。企業別だけでは労働者間の競争規制は難しく、底辺への競争を止められない

と示されて働き方改革の「日本型同一労働同一賃金」を批判され郵政20条裁判、メトロコマースなどの労働者の具体的な闘いも報告されました。

最後に確認しておきたいこととして、組織労働組合の人は労使交渉でやれと言うが、非正規労働者は労使交渉で解決できない状況があるから裁判に訴えた、これらの運動を支えたのは地域型のユニオン運動でユニオンの強化も重要だ。裁判でうまくいかなかったところの穴埋めを立法でやらせる労働運動の取り組みも必要だ。メトロコマース裁判ではメディアも注目した、メディアを味方につけるのも大切、SNS、ネット等で広げ情報環境を変えていくとメディアも変わってくる。

（次ページへ続く）

最後に確認しておくこととして以下の3つの課題を示されました。

- ・ **違いを力にし**、「自分と同じ人」としか連携しないなら連携する相手はゼロになる。そんな人はいないから、その意味で少数派は共通点を探しだして最大の多数派になること。
- ・ **組織は物事を成し遂げるために**不可欠で成功する組織とは、上から目線の運動でなく、人々が自分に力があることを自覚できる組織にすること。
- ・ **政治教育とメディア戦略**(オンラインとオフライン) は不可欠=メディアは第2の現実、

政治教育は不可欠で世の中をまともに見るためのメガネです。

この3つの事を考えて日々身近な活動をしていけば楽しいことが出来てくると締め括り、講演は終わりました。

閉会に当たり五十嵐副議長（東水労）の不合理や差別に諦めることなく皆で声を上げていくことが大切だとの言葉で春闘講座はお開きとなりました。

## 狭山事件の再審開始

### 今度こそ「本物」の正念場

狭山事件の再審開始を求める1.22東京北部集会が部落解放同盟東京都連合会練馬支部、特定非営利活動法人練馬人権センター、石川さんをとりもどそう23日の会の共催で、石神井公園区民交流センターにおいて、48名の参加で開催されました。緊急事態宣言下にも関わらず、予想より多くの方に参加いただきました。参加された方々に感謝いたします。

計画した段階では、最悪の場合、会場の貸し出し中止はありうるかと思ってはいました。だから、中止はある程度予想されました。しかし緊急事態宣言下での練馬区の公共施設は想定外の20時間閉館と中途半端な形になりました。21時位終了予定で、プログラムを組んでいたの、どうしようかと議論になりました。なかには、中止にとり方もいらっしやいましたし、延期してほしいと申し入れてきた労働組合の方もありました。

そういう方々のお気持ちは重々承知の上、今年は、弁護団が証人尋問を求めるという方針を出し、裁判所の感触も否定的でないという狭山再審闘争が新段階を迎える可能性がある。その確認もあるので予定どおりにやろうという事になりました。開催時間が1時間以上短くなるので、会場で参加者の寄せ書きを集め、それを貼り付けたA1判の紙を中心にして、記念写真を撮り石川さんに贈ろうという企画も、矢内練馬区職労委員長等の

連帯挨拶もやめ、必要最小限に絞った集会でした。矢内さんをはじめご迷惑をおかけした方々、すみませんでした。

集会は、人権センターの山本理事長の司会で始まり23日の会の鈴木慰さんの、「今年は新展開が予想され、その確認も必要と、非常事態宣言下、決行していいか悩んだが開催に踏み切った」という開会挨拶で開始しました。

続いて、石川さんご夫妻のビデオメッセージ上映の後、指宿昭一弁護士に講演していただきました。

指宿弁護士は、袴田事件の最高裁決定に、「最高裁が再審開始を決定して良かったのではないか」という門野博元高裁統括判事のコメントの紹介から講演をはじめました。指宿さんは、「石川さんや弁護団の努力で新鑑定が多数提出されている。その中の一つに、下山進さんによる鑑定がある。下山第二鑑定は、蛍光X線分析でインクの成分を鑑定したもの。鑑定では、行方不明になった当日に、被害者が書いた字やインク瓶からは、クロム元素が検出され、石川さん宅の家宅捜索で「発見」され、被害者の物とされている万年筆からは、クロム元素が入っていなかったという鑑定。このことに裁判長は「興味」を持っているとの事。

（次ページへ続く）

このことから、下山さんの尋問の可能性は出てきたというもの。なので証人実現のため今回の「正念場は本物。」と話された。

最後に、堀部落解放同盟練馬支部長より閉会挨拶で終了しました。

講演で指宿弁護士は「毎年毎年、今年こそ正念場と言っていた。山場、正念場といつも言っていると指摘される。でも今度こそ「本物」の正念場とおっしゃってました。私もそう思います。弁護団や中央狭山闘争本部の「今年は山場」という発言を何回も聞いて、眉唾が癖になりかけてい

ましたが、今回の「今度こそ」は本物かなと思います。裁判長が「証人を何人位申請するのか」と発言したそうです。ということは、証人尋問実現は、現実味を帯びていると言っていいでしょう。しかし、検察の抵抗もあるし、ましてや検察の抵抗をはねのけて証人尋問実現しても、即再審開始に結びつくものではありません。それでも、気は引き締め、今年を、再審開始の第一歩である狭山事件の証人尋問実現の年にしていきたいでしょう！

写真は

人権フォーラム web より



「冤晴らす気概を胸に真実を黙する司法に総意で喝」

再審への決意を歌にする石川さん



支援の輪



ろうごろう運動のすすめ

ワクチンと自己免疫力

近年、世界的に大流行している新型コロナウイルスは私たちの生活に多大な影響を与え、現在もその感染者数は増加傾向にあります。そんな新型コロナウイルスに対してワクチンの開発が進んでいます。ワクチンとは「体どういものか皆さんはご存知でしょうか。今回はワクチンの効果や自己免疫力について取り上げていきます。

日常には細菌やウイルスなど病気を引き起こす原因となる病原体が存在します。その病原体が体内に入ると病気を発症し、重度な場合は様々な疾患を引き起こす原因にもなってしまう。しかし人の身体には自己免疫能力が備わっており、再度病原体が侵入しても病気がかからない、もしくは重症化しないようにできています。このしくみを利用したものがワクチンになります。

ワクチンは病原体を無毒化あるいは弱毒化して作られた医薬品の一つとされ、接種する事で病原体に対する免疫を体内で作らせ、その発症を抑えることができます。しかし、ワクチンは必ずしも感染を防げるというのではなく体内に入ってきたウイルスの活動を落ち着かせ、その重症化を防ぐためのものとなります。その為、ワクチンの接種以外にも自身の免疫力を常に高めておく事が大切になります。

人の免疫力には体内に侵入してきた病原体に対して抗体を作る自然免疫と、同じ種類の病原体に対して反応する獲得免疫があります。その免疫向上にはバランスのとれた食事や適度な運動、睡眠による疲労回復などがあり、過度な飲酒、ストレスや疲労は免疫力の低下に繋がってしまうので注意が必要です。

現在WHOの新型コロナウイルスのワクチン開発状況によると臨床試験に入っているワクチン候補は63種類あり、今後日本では米ファイザーのmRNAワクチンを接種する考えと発表しています。

通常のワクチン開発には年単位で時間がかかってしまう為、このような事態に備えて感染から身を守るような身体づくりを日頃から行っておく事が必要になっていきます。

近日、新たに新型コロナウイルスの変異種も確認され感染拡大が懸念されます。出口の見えないコロナ対応ですが、ネガティブなマインド、生活習慣で免疫力を下げてしまわないよう、アクティブに心身の体力づくりに注力していきましょう。

特定非営利活動法人 ヘルスマラソンング

練馬版

落書

おとしがき

川柳自選拾遺集 ⑫

『すなふきん』  
（作：練馬ユニオン 齊藤明男）

《時事》

- ・ 五輪より一輪の花供えたい  
（復興五輪？）
- ・ ウイルスを撃ちてしまん五輪戦  
（ウイルスに打ち勝った証とか）
- ・ 語り継ぐ 安全神話砕けた日  
（廃炉まで四十年？）
- ・ 不祥事もキャリアに載せて天下る  
（ほとぼりが冷めれば…）
- ・ 身内から錆浮かび出る鉄面皮  
（内閣人事局の専横が…）
- ・ 医療費を二倍にするが公助とか  
（後期高齢者医療費二割負担に）
- ・ 立つ鳥は跡を汚して尻まくる  
（トランプも安倍も森も）
- ・ ヤジロベエ傾いたよと解除決め  
（再拡大の中で成り行き任せ）
- ・ 「わきまえる」男社会が戦（いくさ）する  
（弁当方式を余儀なくされているが…）

《貧困》

- ・ こども食堂 心も腹も満たしたし
- ・ 鳴りやまぬ電話いのちを繋ぎあう
- ・ 踊る株どこの世界か段ボール  
（株価三十年ぶりに三万円）

《雑詠》

- ・ 巢ごもりの巢で爪を研ぐ方丈記
- ・ もう夢は何もないよと種を蒔く

【川柳デモ】

- ・ あれから十年忘れるものか福島を
- ☆ 3・11東電抗議（乱鬼龍氏）



\* 編集部では短歌・俳句・詩・川柳などの投稿をお待ちしています。

## 3.19 郵政産業労働者ユニオン 全国一斉ストライキ

郵政産業労働者ユニオンは3月19日（金）午前11時から郵政本社前でストライキ決起突入集会を開催しました。

郵政労働者のストライキに連帯するためナショナルセンターをこえて地域の労働組合が結集しました。練馬全労協・練馬地域ユニオンも参加してきました。

集会は主催者から、会社の不誠実な回答状況の報告から始まり、全労協、全労連よりの激励挨拶に続き激励に駆けつけてきた地域の労働組合からも連帯の挨拶がありました。

集会終盤では、現場組合員からの決意表明、3.19ストライキ宣言、シュプレヒコール、団結頑



張ろうでストライキ決起突入集会は成功裏に終了しました。

（写真は郵政産業労働者ユニオンHPより）